

# 令和4年度茨城県普及活動検討会実施結果

農 業 技 術 課  
農業総合センター専門技術指導員室

## 第1 目的

本県における協同農業普及事業の実施状況、及び普及指導計画に設定した課題の解決に関する進捗状況並びに結果等について、事例報告や質疑応答をとおして外部委員から客観的な評価を得るとともに、次年度の普及活動に反映させる。

## 第2 評価委員

分野	委員名	所属・役職
先進的な農業者	畠 長 弘	茨城県農業経営士協会 会長
若手・女性農業者	大和田 悦子	茨城県女性農業士会 会長
農業関係団体	岩田 和之	茨城県農業協同組合中央会 県域営農支援センター センター長
消費者 学識経験者	根本 悦子	クッキングスクールネモト 主宰
民間企業	星野 康人	ホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所 代表

## 第3 評価内容

### 1 主要な普及指導計画

・事例報告を行う各農林事務所経営・普及部門及び地域農業改良普及センターが策定する農業改良普及指導計画書のうち、主要な普及指導計画に定められた成果目標の達成状況について、農業改良普及指導計画書及び普及指導活動実績書を提示し、評価を受けた。

### 2 主要な普及指導計画の活動事例

・茨城県の普及活動の概要及び各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターの普及指導体制と活動事例について、検討会での報告をもとに、評価を受けた。

#### (1) 日時

令和4年11月18日(金) 13:00~17:00

#### (2) 開催場所

農業総合センター 2階大研修室(笠間市安居 3165-1)

#### (3) 活動事例の内容

ア 「儲かる農業を実践するほしいも経営体の育成」

県央農林事務所経営・普及部門

イ 「高収益ピーマン経営体の育成と産地課題解決の実践」

鹿行農林事務所経営・普及部門

ウ 「大規模普通作経営体の育成」

県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

エ 「水田経営の効率化と生産基盤強化による持続可能な経営体の育成」

県西農林事務所坂東地域農業改良普及センター

#### (4) 参集範囲

評価委員、農業政策課、農林事務所、農業総合センター、農業技術課 等

## 第4 その他

「茨城県普及活動検討会(外部評価)実施要領」及び「令和4年度茨城県普及活動検討会(外部評価)の運営について」に基づき実施した。

第5 主要な普及指導計画の評価結果一覧

課題番号	課名	課題名	内部評価結果	外部評価結果						
				A	B	C	D	内部 <外部	内部 =外部	内部 >外部
水1	経営課	地域ぐるみで取り組む経営感覚に優れた担い手の確保・育成	A	4	1	0	0		80%	20%
水2	地域普及 第一課	加工・業務用キャベツを中心とした大規模露地経営体の育成	A	5	0	0	0		100%	0%
水3	地域普及 第二課	経営の合理化による持続可能な二 経営体の育成	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
水4	地域普及 第三課	儲かる農業を実践するほしいも経 営体の育成	A	4	0	0	0		80%	0%
銚1	経営課	産地を担う経営体の育成	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
銚2	地域普及 第一課	ICT を活用しトップレベルの収益 を実現する施設野菜経営体の育成	A	5	0	0	0		100%	0%
銚3	地域普及 第二課	栽培技術の高度化及び産地体制の 強化による儲かるピーマン経営体 の育成	B	4	0	0	0	80%	0%	0%
つ1	経営課	つくば地域を支える新規就農者の 参入支援と先進的経営体の育成	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
つ2	地域普及 第一課	大規模普通作経営体の育成	A	0	4	0	0		0%	80%
つ3	地域普及 第二課	大規模普通作経営体の育成	B	2	3	0	0	40%	60%	0%
坂1	経営課	水田経営の効率化と生産基盤の強 化による持続可能な経営体の育成	A	3	1	0	0		60%	20%
坂2	経営課	「経営者マインド」を備えた青年 農業者の育成と新規就農者の育成 と定着	B	1	3	0	0	20%	60%	0%
坂3	地域普及 第一課	ネギ及びレタスを中心とした大規 模露地野菜経営体の育成	B	1	3	0	0	20%	60%	0%
坂4	地域普及 第二課	普通作（畑作）経営における次世 代農業の実現	A	3	0	0	0		60%	0%

評価委員5名の評価個数を集計し、内部評価結果よりも外部評価結果が良かった割合、内部評価結果と外部評価結果が一致した割合、内部評価結果よりも外部評価結果が悪かった割合を算出。合計が100%に満たない項目について、評価結果の未記載によるもの。

## 今後の普及活動に反映させたい事項

### 1 県央農林事務所経営・普及部門の活動事例から反映させたい事項

担い手の確保・育成に向けて、引き続き市町村や県農林振興公社等の関係機関と連携し、情報共有を進めること。茨城県は、ほしいも生産量が日本一の責任産地である。その伝統を継承し、発展をめざすため、技術的、経営的支援を行うこと。特に、ほしいものブランド力を高めることと、コスト低減や利益率向上のための支援を行うこと。

#### (評価委員コメント)

- ・経営体への支援については、個々の課題に対応して支援が行われているが、引き続き課題を明確にして支援を進めること。規模拡大したモデル経営体に対する技術・経営支援を通して、他の経営体への横展開を図っていくこと。また、農業参入等支援センター等の専門家を活用し、支援対策が広く農業者に伝わるよう、努力すること。
- ・「日本一のほしいも産地」の発展のため、技術的・経営的支援はもとより、ブランド力を高めるための支援をすすめること。特に、食味向上について支援すること。
- ・ほしいもは、昔から根付いた品目であり、現在の状況をブームで終わらせることなく、戦略をもって支援を行うこと。
- ・サツマイモ基腐病に対する防除対策を、引き続き講じること。
- ・高品質多収栽培技術の検証を進め、排水不良地等における安定栽培の現地実証を支援すること。
- ・労働力を安定的に確保するための対策を進めること。

### 2 鹿行農林事務所経営・普及部門の活動事例から反映させたい事項

環境制御技術の導入による労働力確保などの対策の横展開を図り、新たな課題の解決に努めること。経営の見える化活動を継続し、各経営体のステップアップにつなげること。燃油高騰等によるコスト増加に対する対策を進め、コスト低減と収量安定対策に努めること。ピーマンのブランド力の向上を推し進めるとともに、ピーマンの栄養効果をPRすることなど、消費者への情報提供を行って、消費拡大と価格の安定に努めること。今後の産地の在り方についてJA等と連携して検討を進めること。

#### (評価委員コメント)

- ・アンケート調査により、ピーマン栽培を行っている地区の特徴や課題を明確にしてきたが、その結果を経営改善につなげ、さらにPDCAを回し、それぞれの地区において不断に支援を行うこと。
- ・見える化資料を作成し、改善意欲を持たせてきた。その結果、経営体がどのように変化したかを検証し、次のステップにつなげること。
- ・産地の役割は、個別経営体では取り組むことが困難な課題に取り組むことである。今後の産地の在り方について問題を提起し、検討してほしい。
- ・熟した赤ピーマンや未熟果の活用方法の提案を行って、新しいビジネスチャンスにつなげてほしい。
- ・ピーマンの消費拡大につながるように、栄養のPRや、インパクトのあるネーミング、親しみやすいキャラクター等を検討してほしい。

### 3 県南農林事務所つくば地域農業改良普及センターの活動事例から反映させたい事項

県内有数の稲作地帯であり、大規模経営体の育成に取り組んでいるが、経営体の支援ニーズを把握し支援を行ってほしい。経営体とのコミュニケーションを密にし、経営方針樹立を支援して、その実現を図ること。農業者が掲げた経営目標の達成のため、関係機関と連携し、農地の集積集約を進めること。経営最適化ソフトを活用した経営計画の作成やコメ生産費の算出など、具体的なデータに基づいた支援を行うこと。

(評価委員コメント)

- ・ 今後は、茨城県の強みである園芸作物を活用して周年就農が可能な複合経営や多角経営への支援を強化してほしい。
- ・ 生産技術や経営管理技術だけではなく、販売方法などマーケティングの考え方や手法について支援してほしい。
- ・ 農地集約には、市町村等関係機関との連携、協力が必要である。よく農業者を知っている普及センターが話合いのコーディネーターとして最後まで取組んでほしい。
- ・ Uターン、農外からの新規参入による就農者が多いが、しかし定着が少ないのは残念である。定着するように取組を強化すること。

### 4 県西農林事務所坂東地域農業改良普及センターの活動事例から反映させたい事項

次世代農業実現のため、今後ますます需要のある小麦品質維持のため支援を行ったことは評価できる。引続き、品質維持、新規生産者への指導で、産地支援を行うこと。

(評価委員コメント)

- ・ 品質維持のためのスマート技術導入や販売体制を確立された事は高く評価したい。引き続き取組んでほしい。
- ・ 茨城県産小麦の商品価値(商品コンセプト)を明確にして、ブランド化を目指してほしい。
- ・ 農業経営は、気象条件や市場動向などの影響を受けやすいことから、短期間では目標達成が困難である。短期間の経営成果よりも中長期に渡り安定した経営成果が上げられる経営を目指してほしい。
- ・ 新規就農者に対し、縦・横のつながりに加え、消費者との交流を交えることで、新たな視点でモチベーションを上げるように努めること。引続き、経営者マインドの定着に向け、青年農業者への伴走支援を行うこと。